RI*WAC
Research Institute for Women and Careers
日本女子大学現代女性キャリア研究所

RIWAC 管理番号	RJO0017
調査タイトル	「卒業生へのアンケート調査」
論文／雑誌名	「卒業生へのアンケート調査－アンケート調査結果と分析－」 『家政経済学論叢』第 30･31 合併号
著者	卒業生の会：時子山ゼミ　4 年生
掲載ページ	pp.77-102.
発行年	1995.04
出版社	日本女子大学家政経済学会

家政経済学論叢　第30・31合併号目次

巻 頭 言

30年記念シンポジウムについて …… 高 木 郁 朗 … 1

松尾均先生追悼

追悼 …… 倉 野 精 三 … 3

松尾先生の思い出 …… 高 木 郁 朗 … 4

松尾均先生への私的追悼文 …… 堀 越 栄 子 … 6

特集Ⅰ　30年記念刊行図書『家族の変化と生活経済』をめぐって

記念図書刊行について …… 時子山 ひろみ … 9

懸賞論文（応募者一覧及び入賞論文）…… 15

優秀賞受賞論文

「共働き世帯と専業主婦世帯の家計構造の比較」

（第８章　消費への影響）を読んで …… 加瀬谷 まゆみ … 17

高校教師として働きながら …… 長 岡 敏 子 … 20

第13章　「農家経営の課題」

農村生活に接しての活動から …… 鈴 木 邦 子 … 23

第12章　高齢者介護への影響を読んで …… 加 藤 宏 子 … 26

第７章　所得への影響 …… 近 藤 久美子 … 30

「家族の変化と生活経済」より …… 田 近 麻 利 … 32

特集Ⅱ　30年記念シンポジウム（第３回）「家政経済学科の特質を問うⅢ」

学科報告

学科カリキュラムと大学院構想 …… 植田（岡崎）敬子 … 37

家政経済学科の特質と研究 …… 堀 越 栄 子 … 39

家政経済学科の現在の問題点と将来構想 …… 住 沢 博 紀 … 45

学科報告へのコメント …… 伊藤セツ … 51
討論の部 …… 59
参加者の意見・感想
家政経済学科の特色を生かす途を切り開いていくには
…… 小林俊子 … 71
シンポジウムに出席して …… 手塚和子 … 72
シンポジウムに参加して …… 佐々木(高浜)美由紀 … 74
スーパーウーマンを目指して …… 遠藤元子 … 75

特集Ⅲ　卒業生へのアンケート調査
アンケート調査結果と分析 …… 卒業生の会：時子山ゼミ　4年生 … 77

特集Ⅳ　生活問題への経済学的アプローチのために
文献リストおよび書評紹介(3) …… 103

論　稿
長子発達段階毎の、住居所有関係と子供数からみた
住居関係費調整後の家計支出構造 …… 玉川良重 … 141

学生研究
真に持続可能な農業の追求 …… 山根佳恵 … 155
主婦による新聞配達労働 …… 竹下雅子 … 171

卒業論文概要（1993年度）…… 201
卒業論文概要（1994年度）…… 243
家政経済学科だより（1993、1994年度）…… 289
日本女子大学家政経済学会会則 …… 296
「家政経済学論叢」編集・投稿規定 …… 298
執筆者紹介 …… 300
「家政経済学論叢」第21～第30・31合併号総目次 …… 303
編集後記 …… 309

巻頭言

30年記念シンポジウムについて

高木郁朗

1994年度は家政経済学科が創立してちょうど30周年にあたった。経済学をツールとして生活問題の研究教育を行うという、学科の創立者たちの考え方を現代に合わせていくためにちょうど良い機会だと考えて、学科では2年前から30周年記念事業に取り組み、今年度で一応のしめくくりを迎えることとなった。

現代のニーズに答えるという観点から、学科では3年間にわたって体系的なシンポジウムをおこなってきた。第1年目には学問分野のなかで家政経済学科をどのように位置づけるかを論じ、第2年目には学科の卒業生を中心として家政経済学科が社会や企業のなかでどのように貢献しているかを確かめ、第3年目にはそのうえにたって学科のスタッフの側から将来構想を提起して論議した。

このような論議を重ねるなかで、まだ部分的とはいえカリキュラムの変更に着手し、家政経済学会の運営の改善を行った。とくにこの間、卒業生からも生涯教育の一環としても要望の高かった大学院の構想を推進し、1995年5月には家政学研究科のなかの生活経済専攻として設置できるよう文部省に申請するところまでこぎつけた。

また学科の生命ともいえる研究活動についても国際家族年に合わせるかたちで共同研究を行い、たまたま30周年の時期に定年を迎えられた宮村光重、倉野精三両教授の共編で『家族の変化と生活経済』（朝倉書店）と題して、研究成果を公表した。幸い、この研究については学界で論議の対象として生かされつつある。

自画自賛風にいえば、家政経済学科は30周年事業を1つの契機として、新しい時代に生きる積極的な試みを開始したことになる。この試みが成功するよう、卒業生、在学生など家政経済学会の会員から、ますます多様で積極的な提言を期待したい。

ある。学科の特質の意義は、就職後に、就業を継続した卒業生などによって事後的に認められる場合が多い」とあります。

私も、まさにスペシャリストとしてではなく、ジェネラリストとしての教育を受け、社会に出てもその道を選び働いている訳ですが、就職してから今までずっと、そして、多分これからもこの前者と後者の関係について悩み、選択し続けていかなくてはならないでしょう。

私の勤めている会社は、建築コンサルタント業を営んでおり、社員の多くが技術者であり、そのため経営サイドも技術出身の方々ばかりで、社内も何となく技術系の方が地位が高く、事務系は低く見られるような雰囲気があります。しかも、世の中全般、この不景気になり、事務系のわくがどんどん縮小され、その仕事内容も、雑用が増えるばかりで以前よりも高尚さがなくなって来ているのではという時勢です。私の会社も例外ではなく、ジェネラリストとして技に磨きをかけるということが困難になってしまったように思います。ある意味では、「何でも屋」が求められているのでしょうが、このことはジェネラリストとは、かなり意味が違って来るでしょう。

そこで、私が思うことは、ジェネラリストとして生きていく場合も、何かの専門性を武器にしていかないと社会のニーズにはかなわないし、自分自身も強気で仕事に立ち向かうことができないのではということです。

ですから、家政経済学科の将来にむけた選択は、どの道をとりましてもスペシャリスト育成の色が濃く、とても賛同できます。社会人になり、日本社会における女性であるというハンディキャップを、まざまざと感じさせる中、是非、家政経済学科の特性を社会で武器としていけるスペシャリストとして、かつ元来の学科教育が目指して来たジェネラリストに飛躍していって頂きたいと、後輩の皆さんにお伝えします。

植田先生の報告の中にあるような、これだけ素晴らしいカリキュラムを学ぶ中で、更にスペシャリストとしての技を身につけて社会へ飛び立てば、家政経済学科出身女性は、まさに、社会でのスーパーウーマンとなりうるでしょう。

私自身も、このスーパーウーマンに限りなく近づけるよう、「日々たゆまぬ努力を！」の信念を、満員電車の中で唱えてゆこうと思います。

特集Ⅲ　卒業生へのアンケート調査

—アンケート調査結果と分析—

卒業生の会：時子山ゼミ　4年生

皆さんもご存じのように、昨年1994年は、日本女子大学家政学部家政経済学科設立30年に当たり、27回生までの卒業生も1,945名を数えるにいたりました。そこで家政経済学科・卒業生の会では30周年を記念して昨年11月、同学科の卒業生を対象に家族・職業・社会活動等についての簡単なアンケートを行いました。その集計結果を報告します。卒業生の方々が、どのように社会に関わりあって生活していっているのか、少しでもおわかりいただけたらと思います。調査対象は、1994年３月卒業（27回生）までの1,945名で、回答いただいたのは832名です。（42.8％）。

表１　回生別回答数

回　生	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
人　数	58	55	73	61	52	52	43	74	67	71	70	78	70	94
回答数（%）	25 43.1	26 47.3	25 34.2	28 45.9	20 38.5	22 42.3	18 41.9	31 41.9	39 58.2	39 54.9	33 47.1	32 41.0	32 45.7	46 48.9

回　生	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	計
人　数	75	77	72	63	83	73	94	73	67	83	79	94	82	1945
回答数（%）	37 49.3	44 57.1	32 44.4	34 54.0	48 57.8	27 37.0	36 38.3	36 49.3	25 37.3	28 33.7	25 31.6	25 26.6	19 23.2	832 42.8

また、昭和58年をもって20周年を家政経済学科が迎えた際にも「家政経済学科20周年を記念する卒業生の会」の方々が、同様の調査を実施し、アンケート結果を「家政経済学論叢」第20号で報告されております。今回の分析においては、当時の調査結果との比較・検討を行っております。

本報告は５つの章で構成されています。

１．世帯構成について

２．職業

(1)　有業者について

表2　配偶者の有無と世帯構成

回生	年齢	サンプル数	配偶者 有	配偶者 無	夫の年齢 ～30才	31～35才	36～40才	41～45才	46～50才	51才以上	世帯構成 子供の数 1人	2人	3人	4人以上	0人	末子の年齢 0～2才	3～6才	7～12才	13～15才	16才以上
1	49	25	24	1	0	0	0	0	5	18	3	11	7	0	3	0	0	1	0	20
2	48	26	23	3	0	0	0	0	11	10	4	14	5	1	2	0	0	2	2	20
3	47	25	23	2	0	0	0	0	15	8	1	15	5	0	4	0	0	2	5	14
4	46	28	26	2	0	0	0	0	18	5	1	13	7	0	7	0	0	7	7	7
5	45	20	18	2	0	0	0	0	10	3	1	11	4	0	4	0	2	5	0	9
6	44	22	19	3	0	0	0	0	8	1	0	12	6	0	4	0	0	9	7	2
7	43	18	18	0	0	0	0	0	8	3	2	8	5	1	2	0	2	5	5	4
8	42	31	30	1	0	0	0	22	8	0	8	15	6	1	1	0	0	20	9	1
9	41	39	36	3	0	0	4	17	12	1	3	16	14	0	5	2	5	24	1	0
10	40	39	37	2	0	0	8	23	5	0	6	22	4	1	6	3	4	21	4	0
11	39	33	29	4	0	3	5	19	2	0	7	17	6	1	2	4	10	13	2	0
12	38	32	26	5	0	0	13	10	2	0	5	14	6	0	7	1	10	15	0	0
13	37	32	32	0	0	2	0	10	1	0	6	14	6	1	5	6	15	5	1	0
14	36	46	40	6	0	0	0	15	1	0	5	22	9	6	10	13	18	5	0	0
15	35	37	29	8	0	10	0	3	0	0	3	17	6	0	11	13	9	4	0	0
16	34	44	36	8	0	16	0	0	0	0	9	15	4	0	16	12	16	0	0	0
17	33	32	29	3	1	13	0	1	0	0	10	11	0	0	10	11	9	0	1	0
18	32	34	26	8	2	18	0	0	0	0	12	6	1	0	15	17	2	0	0	0
19	31	48	38	10	5	25	0	1	0	0	20	9	1	1	17	27	4	0	0	0
20	30	27	21	6	8	9	0	0	0	0	5	4	0	0	18	9	0	0	0	0
21	29	36	19	17	10	9	0	0	0	0	8	3	0	0	25	11	0	0	0	0
22	28	36	23	13	13	8	0	1	0	0	9	3	0	0	24	10	2	0	0	0
23	27	25	10	15	8	2	0	0	0	0	1	0	0	0	24	1	0	0	0	0
24	26	28	10	18	8	2	0	0	0	0	2	0	0	0	26	2	0	0	0	0
25	25	25	5	20	3	0	0	0	0	0	1	0	2	0	22	2	0	1	0	0
26	24	25	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
27	23	19	0	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		832	628	204	58	117	30	122	106	49	132	272	104	13	270	144	108	139	44	77

(2)　無業者について

3．地域活動

4．生涯活動

5．老人介護

1．世帯構成

・有配偶比率にみる晩婚化

以下のデータは、有配偶比率について今回（30周年時）と前回（20周年時）を比較したものである。（表2より）

有配偶比率（30周年時）

卒業後1・2年目（27・26回生）……　0%

3年目　（25回生）……　20.0%

4・5年目（24・25回生）……　37.7%

6年目　（22回生）……　63.9%

10年目　（18回生）……　76.5%

有配偶比率（20周年時）

卒業後1・2年目……　0%

3年目……　20.0%

4・5年目……　66.7%

6年目……　80.0%

10年目……　91.3%

上記より、卒業後1・2・3年目の有配偶比率は30周年時、20周年時で変化は見られないが、卒業後4年以降においては変化が見られる。卒業後3年目はどちらの有配偶比率も20%であるが、4・5年目になると前回は66.7%で46.7%ポイント上昇し、今回は37.7%で17.7ポイント上昇と、前回の方が4・5年目での上昇が高い。また今回でもっとも上昇率が高いのは、卒業後4・5年目から6年目にうつる時期で26.2%ポイントの上昇率である。

これより、ここ10年間で卒業生において晩婚化が進んでいることがわかる。

・子供について

子供の数についてみると、全体的に「２人」が多くみられる。ただし、若い回生層は更に子供を産む可能性もあるが、１～４回生は０～６才までに末子がおらず、16才以上が圧倒的に多いので、これ以上子供を産まないと思われる。この回生層で１家族における平均の子供の数は1.98人であり、２人の子供をもつ家庭が一般的と考えられる。（表２より）

２．職　　業

(1)　有業者について

表３の職業についてのデータから分かることは、子育て期と思われる16～18回生（32～34歳）ぐらいの有業率（各回生の有業者数÷各回生のはがき枚数×100）が低いということである。これは、子育てのために離職する人が多いということを意味しているのだろうか。後ほど他のデータをもとに検討してみたい。（この有業率というのは回収したアンケートはがきの出した値であるので、これを用いて導き出した分析結果は、必ずしも正確なものとは言えない。しかし、やむを得ないので、この範囲内でみていきたい。）

次に表３から分かることは、やはり卒業して間もない回生の有業率は高いということである。では、有業率と卒業時の就職率とは関係しているのか。表３と図１を比較しながら検討して見よう。まず、図１ですぐに目につくのは、25回生の卒業時の就職率100％であるが、表３の25回生の有業率を見てもやはり72％と高い。また、表３の有業率で最も低い11回生の卒業時の就職率を見てみると、55.7％とけっして高いとは言い難い。こうしてみてみると、卒業時の就職率と現在の有業率は全く関係ない訳ではないらしい。

有業者の仕事の内容をみてみると、卒業後間もない時期にはフルタイムの雇用がほとんどだが、卒業後何年もたつとフルタイム雇用の割合が減少し、自営業やパート、その他の割合が増加する。すなわち、家業としての自営業や、スポーツ・楽器・学習・華道・茶道などの指導者として職につく人が目だってくる。

有業者に、現在の仕事の継続意志をを聞いたところ、卒業後１年目の27回生の継続意志が最も低いのは驚きである。継続意志42.9％に対し、転職したい率が

表３　職業について

回生	卒業生数（人）	ハガキ枚数（枚）	有業者（人）	仕事の内容 自営業（人）	フルタイム（人）	パート（人）	その他（人）	割合（%）有業者／ハガキ枚数×100	仕事の継続 続けたい（人）	転職したい（人）	やめたい（人）	その他（人）	無回答	無 家事見習	華道・茶道	その他	無回答	職業の経験 フルタイム	パート	両方	なし	無回答	これから はい	いえ	無回答
1	58	25	17	5	4	6	2	68.0	12	0	1	0	4	8	0	8	0	1	2	3	0	2	2	2	4
2	55	26	13	6	4	2	1	50.0	12	0	0	0	5	13	0	13	0	2	0	2	2	7	3	4	6
3	73	25	14	3	5	4	2	56.0	10	1	0	0	3	11	0	7	0	1	3	3	3	1	2	4	5
4	61	28	11	5	3	3	0	39.3	7	1	0	0	3	17	0	16	0	7	1	3	1	5	7	5	4
5	52	20	9	2	4	3	0	45.0	9	0	0	0	0	11	0	10	0	5	1	0	2	3	3	3	5
6	52	22	13	2	8	2	1	59.1	9	1	0	0	4	9	0	8	0	3	0	1	1	4	3	2	4
7	43	18	9	6	1	2	0	50.0	7	0	1	0	1	9	0	7	0	1	0	1	3	4	2	4	3
8	74	31	15	4	4	3	4	48.4	10	1	0	0	4	16	0	15	0	3	1	3	2	7	7	5	4
9	67	39	19	2	14	3	0	48.7	13	1	0	0	5	20	0	16	0	7	2	1	1	9	4	3	13
10	71	39	17	3	7	1	6	43.6	11	1	0	0	5	22	0	21	0	6	1	2	3	10	7	7	8
11	70	33	20	6	10	4	0	18.2	14	1	0	0	5	13	0	10	1	2	0	5	2	4	6	3	4
12	78	32	18	4	9	4	1	56.3	15	1	1	0	1	14	0	14	0	4	0	4	3	3	8	4	2
13	70	32	14	2	6	6	0	43.8	9	0	0	0	5	18	0	17	0	3	2	2	3	8	5	5	8
14	94	46	17	2	9	2	4	37.0	12	1	0	0	4	29	0	28	1	11	2	4	3	9	14	4	11
15	15	37	19	3	13	3	0	51.4	9	2	1	0	7	18	1	14	1	2	5	1	2	0	8	1	9
16	77	44	15	2	9	1	3	34.1	10	3	0	0	2	29	0	25	1	3	7	1	7	10	16	4	9
17	72	32	11	0	6	5	0	34.4	7	0	2	0	2	21	0	15	2	4	7	1	7	13	8	3	10
18	63	34	15	2	10	3	0	44.1	10	0	0	0	5	19	0	17	1	1	7	0	6	6	9	4	6
19	83	48	23	4	16	2	1	47.9	11	2	3	0	7	25	3	22	0	0	10	0	4	9	9	5	11
20	73	27	12	0	11	1	0	44.4	7	2	1	0	2	15	1	12	0	2	6	1	3	5	7	4	4
21	94	36	20	2	15	2	1	55.6	11	5	1	0	3	16	1	12	3	0	11	0	3	1	10	4	2
22	73	36	16	0	14	2	0	44.4	10	5	1	0	0	20	0	12	0	8	7	0	1	10	6	2	12
23	67	25	14	1	12	1	0	56.0	10	2	1	0	1	11	0	5	1	5	4	0	2	5	4	0	7
24	83	28	18	2	14	2	0	64.3	11	1	3	0	3	10	1	7	0	2	2	0	0	1	3	2	5
25	79	25	18	2	16	0	0	72.0	12	4	2	0	0	7	0	0	1	6	0	0	0	7	0	0	7
26	94	25	14	0	13	1	0	56.0	11	2	1	0	0	11	0	1	2	8	1	0	0	10	1	0	10
27	82	19	14	0	14	0	0	73.7	6	3	2	0	3	5	0	0	3	2	0	1	0	2	2	1	2
計	1873	832	417	70	251	68	26	50.1	276	41	23	0	84	415	7	274	18	58	123	20	69	38	156	85	175

図１　各回生の卒業時の就職率

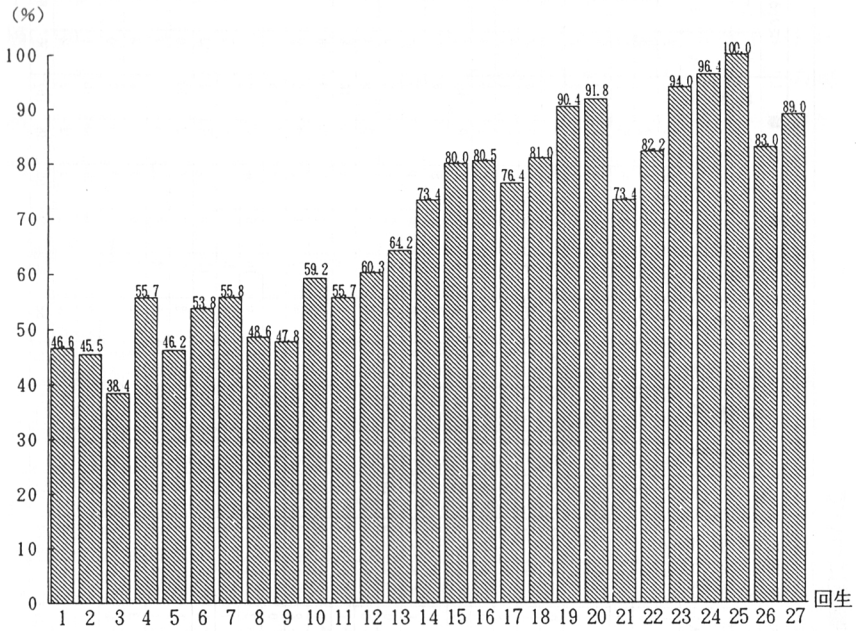
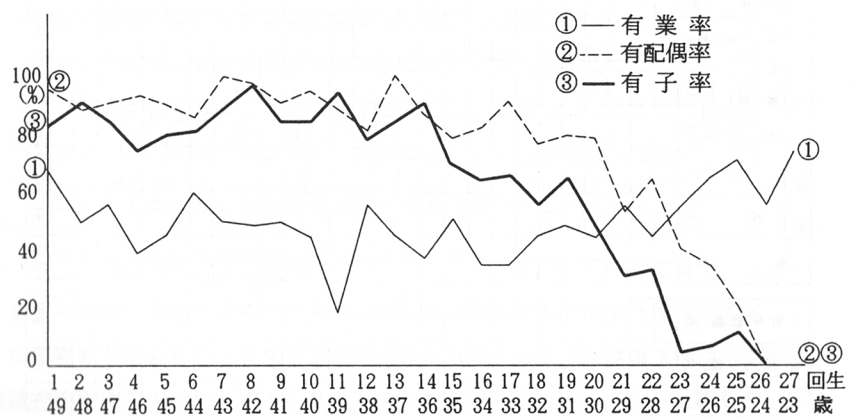


図２　回生別の有業率、有配偶率、有子率



21.4%、辞めたい率が14.3%という結果からしても、社会人１年目で自分の本当にしたい仕事とのギャップなどを感じていると思われる。卒業後15年目以上（13回生以前）ぐらいになると、仕事の継続意志が強い人が働くためか、その割合はかなり高い。ちなみに、現在の仕事の継続意志１回生は70.5%、２回生は92.3%、３回生は71.4%、５回生は100%となっている。

次に、有業者と、子供・配偶者の有無の関係を検討してみよう。図２の①の有業率と②の有配偶率の折れ線グラフの関係からまずみてみよう。極端にいえば正反対の形状をしているように見える。やはり卒業して５年ぐらいまでの人達は（27～23回生）結婚している人が少ないためであろうか有業率は高い。卒業して５年以後になると、結婚している人がかなり増えるが有業率はさほど下がっていない。やめる人は結婚するのと同時にやめたり、子育てのためにやめたりするのだろうが、やめずに働き続ける人や子育てが終わってから復職する人も、比較的多そうだ。結論としては、やはり結婚していない人の方が有業率が高いようだが、結婚によって退職するという人は少ないように思われる。

次に有業者と子供の有無との関係について見てみよう。図２の①有業率と③有子率の折れ線グラフを見てほしい。特徴的なのは、先ほどみた②の有配偶率の折れ線グラフと③の有子率の折れ線グラフがほぼ同じ形状であるということだ。したがって、先ほどの有業率と有配偶率の関係での結論とほぼ同じ結論が得られそうだ。卒業後５年ぐらいまでの人は有子率が低いこともあって有業率は高い。しかしそれ以後、卒業して５年以上になるにつれて（回生が古くなるにつれて）、有子率は徐々に増えるものの有業率はそう極端に下がっていない。しかし有子率のきわめて高い（100%に近い）８回生、11回生、14回生の有業率は、それに応じて下がっている。有業率と有配偶率との関係よりも、有業率と有子率の関係は相応しているように思われる。結論としては、有子率が増えるにつれて有業率が極端に下がるということはないようだが、ところどころ、有子率が高い回生の有業率は落ちている、ということが言えそうだ。そうするとやはり、子供の有無が職業をやめるかどうかに影響するということが考えられよう。

・回生別労働力率

総務庁統計局では「労働力調査」のなかで、年齢階級別に女子労働力率の調査を行っており、労働力人口を就業者＋完全失業者としているので、ここではアン

ケート調査の職業が「ある」と答えた人と「ない」と答えた中で「失業中」と答えた人の合計を労働力人口とした。

図3　年齢階層別女子労働力率（1）

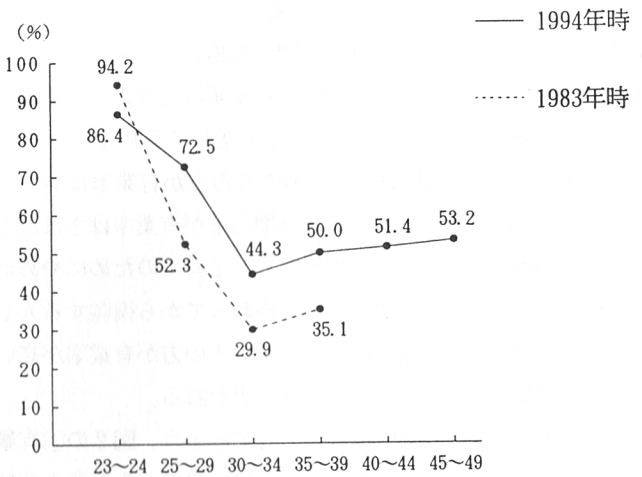
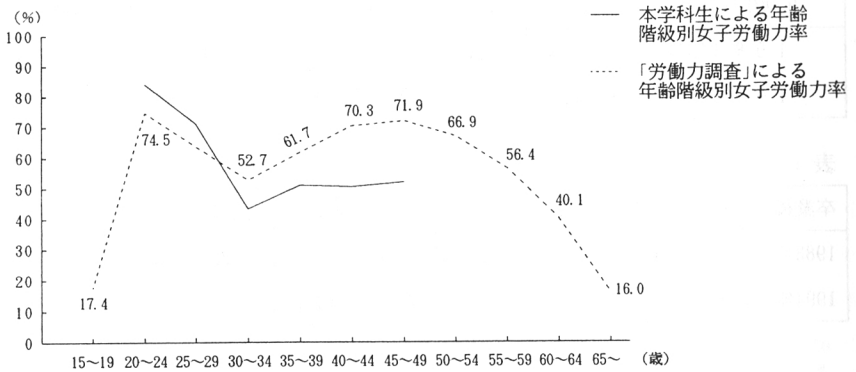


図3をみてみると、30〜34歳層の44.3%を底とした曲線を描いている。10年前に行った前回のアンケートにおいて、30〜34歳層は29.9%であったから、14.4%ポイント上昇している。23〜24歳層では、今回は86.4%と、前回よりも7.8%ポイント減少している。これは、前回23〜24歳であった15・16回生の就職率が高く、今回の26・27回生は不況に見舞われ、就職難で、卒業時の就職率が低かったということが影響していると思われる。23〜24歳、40歳以上を除き、いずれの年齢層でも労働力率は高まり、曲線は全体に上方に移動している。

図4は、「労働力調査」による平成5年の年齢階級別女子労働率と、今回のアンケートによる家政経済学科卒業生からなる年齢階級別女子労働率のグラフである。卒業生によるグラフでは15〜19歳、50歳以上のデータはないが、「労働力調査」のと比較してみても、同様に30〜34歳を底としており、M字型曲線の一部を描いているといえるであろう。しかし、20〜24歳では、本学科の方が全国平均よりも11.9%ポイント（ただし、本学科では23、24歳の平均でのみ算出している）、25〜29歳でも、8.2%ポイントも上回っているのに対し、30〜34歳では8.4%ポ

図4　年齢階級別女子労働力率（2）



イント、35〜39歳では11.7%ポイント、40〜44歳では18.9%ポイントと下回っており、むしろその差は広がっている。M字型曲線の底となる30〜34歳は、結婚や出産する人がその年齢層に集中し、そのために仕事をやめる女性が多いためと思われる。過去の「労働調査」の年齢階級別女子労働率では、昭和50年におけるM字型の最も深い底は25〜29歳であり、その後は30〜34歳を底として、25〜29歳の労働力率は大幅に上昇をしてきている。これは晩婚化等の影響と思われる。図4において、25〜29歳では本学科の方が全国平均より、8.2%ポイント労働力率が高く、一方で30〜34歳では本学科の方が8.4%ポイント低くなっているが、これは全国平均よりもさらに晩婚化が進んでおり、30〜34歳に集中したためと思われる。また全国平均では、その後に社会復帰をする人が、30〜34歳層（52.7%）から45〜49歳層（71.9%）までに、19.2%ポイント上昇しているが、本学科では30〜34歳層（44.3%）から45〜49歳層（53.2%）までに、8.9%ポイントしか上昇しておらず、社会復帰をする割合が全国平均よりも少ない。全国平均に比べ、多くの人が最初に仕事に就いているにもかかわらず、その職業を長期的には生かせていないことがわかる。

・有業者の就職形態の10年後の変化

表4は、同回生層による有業者の形態の変化を比較したものである。9回生から16回生は、1983年の時点で卒業後1〜8年目の方々であった。10年を経て、雇用は69.2%で9.4%ポイント減少しているが、その内訳をみると、「フルタイム」

表4　　単位%

9回生～16回生	自営	雇用	フルタイム	パートタイム	内職	その他	無回答
1983年時	6.3	78.6	70.4	8.2	0.6	3.8	5.7
1994年時	16.4	69.2	52.8	16.4	9.6		4.8

表5　　単位%

卒業後9～16年目の人	自営	雇用	フルタイム	パートタイム	内職	その他	無回答
1983年（1～8回生）	20.2	59.6	44.9	14.6	3.4	15.7	2.2
1994年（12～19回生）	14.0	76.5	57.4	19.1	6.6		2.9

は17.6%ポイント減少し、「パートタイム」が8.2%ポイント上昇している。また、「自営業」が9.9%ポイント、「内職など」が5.2%ポイントそれぞれ上昇している。卒業したばかりはフルタイムが多かったが、10年経って結婚などの要因から、パート職や内職・自営業へとシフトしていると思われる。

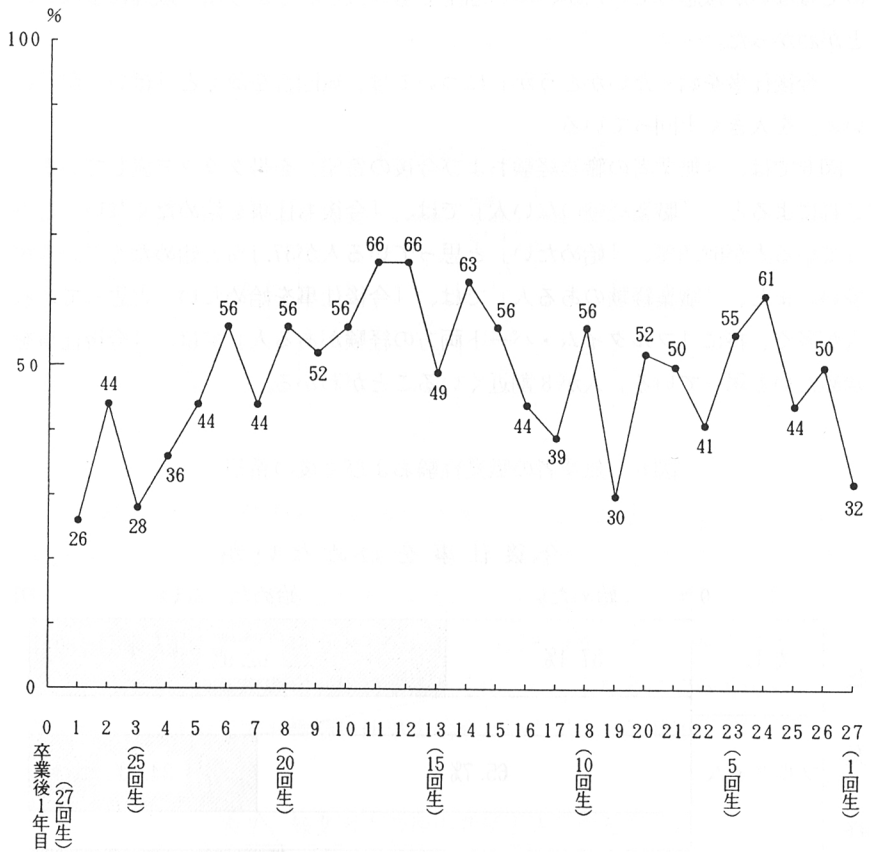
表5は、1983年と1994年の時点で卒業後9～16年目を迎えた回生層による有業者の形態の変化を比較したものである。1983年は1回生から8回生、1994年は12回生から19回生が、卒業後9～16年目の方々であった。1983年は雇用者が59.6%であったが、1994年は76.5%と16.9%ポイント上昇している。内訳の「フルタイム」では12.5%ポイントの上昇である。このように有業者で雇用の形態が増えているのは、勤続年数が長くなってきていること、結婚女性にとっても働きやすい職場環境になってきていることなどの理由が考えられる。

(2) 無業者について

無業者については、まず図5から全体的に数値を見て、それから関連のある事項も交えながらみてみることにする。

今回のアンケート結果によると、卒業生のうち50%が無業者であることがわかる。回生別にみると、もっとも多いのは16回生と17回生で、ともに66%、反対にもっとも少ないのは27回生で26%となっている。27回生は卒業後1年目なので「無業率」が低いのは当然のことだろう。そこで27回生以外で「無業率」の低い回生というと、30%の9回生、32%の1回生となっている。また、卒業後間もな

図5　無業率



い回生の中で「無業率」が高いのは22回生で56%である。これは22回生は大半が28歳くらいの人で、結婚する人が多い歳であることから、無業者が多くなっているのだろう。

無業者の内訳は、圧倒的に「専業主婦」が多く、次に「その他（学生など）」、「家事見習い」となっている。

職業の経験は、「フルタイム」、「フルタイム・パート両方」、「なし」、「パート」の順になっている。無業者のうち、30%がフルタイムの経験があることがわかる。パートは卒業後間もない回生でも経験者はいるようだが、主に17回

生以上の回生で数人みられる。子育てが一段落した後にパートにでる人が増えるのではないかは思っていたが、多い回生でも3人というように、以外に少ないことがわかった。

「今後仕事を始めたいかどうか」については、無回答を除くと「はい」が「いいえ」を大きく上回っている。

図6では、「無業者の職業経験および今後の希望」を帯グラフで表している。これによると、「職業経験のない人」では、「今後も仕事を始めたくない」と思っている人が62.9%、「始めたい」と思っている人が37.1%と始めたくない人が多い。また、「職業経験のある人」では、「今後仕事を始めたい」と思っている人が多く、特に「フルタイム・パート両方の経験がある人」では、「今後仕事を始めたいと思っている」人が8割近くいることがわかる。

図6　無業者の職業経験および今後の希望

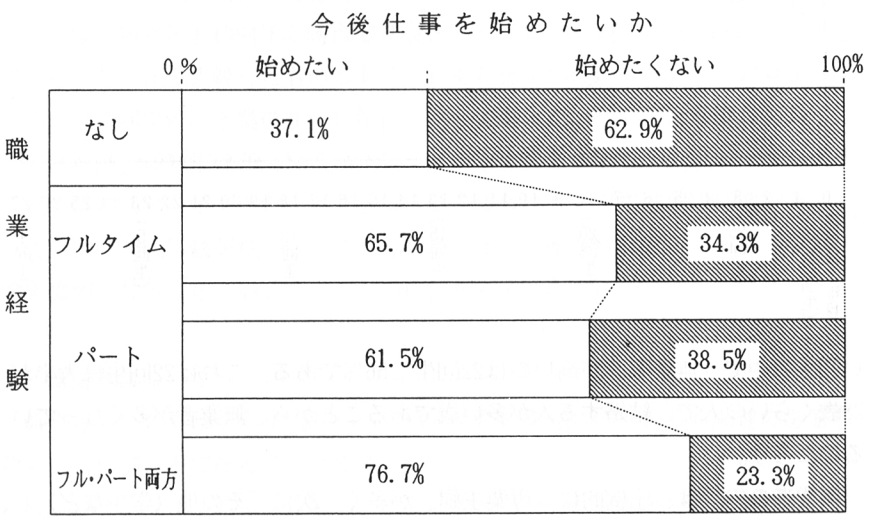


表6は「自分の職業の有無と夫の職業」についてまとめてある。「無業者の夫」と「有業者の夫」との違いは、特に「無業者の夫」は「有業者の夫」に比べて、「自営業」が少なく、「弁護士・医師・会計士など」が多い点であることがわかる。

表6　自分の職業の有無と夫の職業

自分の職業の有無＼夫の職業	全体	民間企業	公務員	自営業	弁護士・医師・会計士など	教員	無業	不明	非該当
全体	832人 100.0%	378 61.9	40 6.6	52 8.5	78 12.8	61 10.0	1 0.2	17 —	205 —
あり	454 100.0	145 55.2	20 7.6	35 13.3	29 11.0	33 12.5	1 0.4	8 —	183 —
なし	374 100.0	232 67.3	20 5.8	16 4.6	49 14.2	28 8.1	— —	7 —	22 —
不明	4 100.0	1 50.0	— —	1 50.0	— —	— —	— —	2 —	— —

「無業者の今後の希望と末子の年齢」をあらわしたのが表7である。「仕事を始めたい」人も、「始めたくない」人も末子の年齢は0～2才がもっとも多い。子供に手がかかるから仕事を始めたくないという人と、これから子供にお金がかかるから仕事を始めたいという人に分かれたのだろうか。また一般的には子供が16才以上になると大学の費用を用意するために、パートなどにでる母親が多いが、この表からは16才以上でも極端に仕事を始めたいと思う人が増加してはいないことがわかる。

表7　無業者の今後の希望と末子の年令

末子の年令＼無業者の今後	仕事を始めたい	仕事を始めたくない
0～2才	54人	21人
3～6才	29	12
7～12才	32	13
13～15才	4	12
16才以上	9	10

最後に、「自分の職業の有無と子供の数」との関係をしめした表8を見ることにする。「有業者」では「子供がいない」人が54.2%、「無業者」では子供の数

は「２人」が41.2%でもっとも多い数字となっている。「無業者」では「子供がいない」人が「有業者」に比べかなり少なく、また子供の数が「３人以上」という人も「有業者」に比べれば多いことがわかる。

表８　自分の職業の有無と子供の数

自分の職業の有無＼夫の職業	全　体	１　人	２　人	３　人	４人以上	０　人	不　明
全　　体	832人 100.0%	132 15.9	272 32.8	104 12.5	7 0.8	314 38.0	3 —
あ　　り	454 100.0	50 11.0	116 25.6	40 8.8	2 0.4	245 54.2	1 —
な　　し	374 100.0	82 22.0	153 41.2	64 17.2	5 1.3	68 18.3	2 —
不　　明	4 100.0	— —	3 75.0	— —	— —	1 25.0	— —

３．地域社会活動

地域活動を「している」と答えた人は41.3%、「していない」と答えた人は57.5%であった。「していない」人の方が多いとはいえ、20周年時のアンケートで得られた「している」人28.8%、「していない」人70.5%という数字と比べると、何らかの形で地域活動に参加する人がこの10年間の間にかなり増えていることが分かる。さらに細かく１～16回生（20周年時のアンケート対象者）に限って今回の数値をみてみると、「している」人は56.1%と高い値を示し、前回を27.3%ポイントも上まわっている。これは、当時の20歳代の人達がこの10年の間に結婚し、子供を持ったことが影響しているのではないだろうか。

図７は、末子の年齢と地域活動への参加の関係を示したものである。これを見ると、０～２歳の乳幼児を持つ人達の場合は地域活動をしていない人（65.7%）の方が多いのだが、３歳以上の子供を持つ人達になると地域活動をしている人の方が多くなっている。そして特に７～15歳の子供を持つ人達の場合、地域活動を「していない」人に対する「している」人の割合が高くなっている。同時に地域活動の内容をみてみると（表９）、「ＰＴＡ」がかなり多くの割合を占めている。

表９　地域活動について

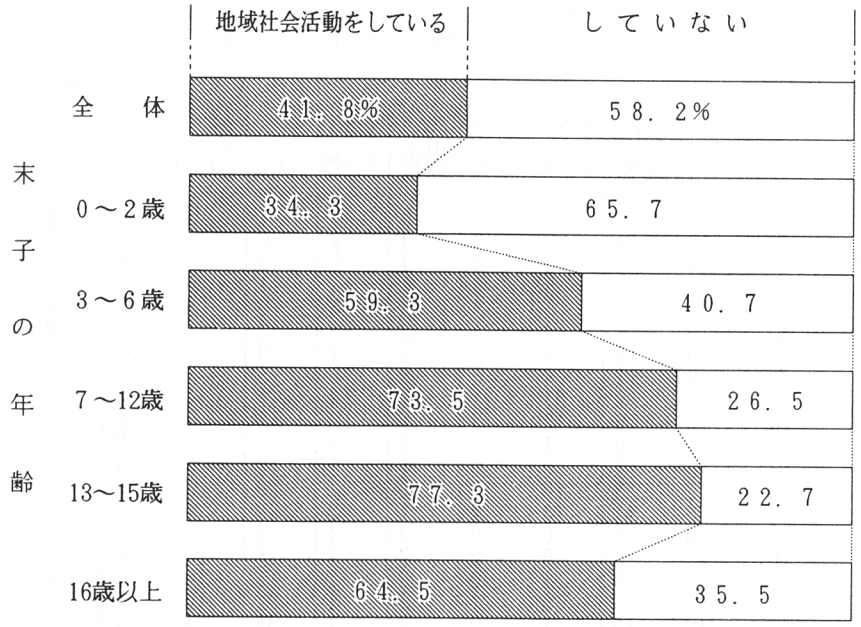
回生	地域活動									
	している						していない			無回答
	(人)	(イ)生協	(ロ)ＰＴＡ	(ハ)奉仕	(ニ)市民運動	(ホ)その他	(人)	(イ)今後したい	(ロ)したくない	
1	18	4	1	6	0	1	7	5	0	0
2	19	4	2	3	3	2	6	3	1	1
3	20	4	3	4	4	0	5	1	0	0
4	17	5	5	6	1	1	11	5	1	0
5	11	2	5	3	3	3	9	3	3	0
6	10	4	4	1	3	3	12	1	2	0
7	9	3	7	2	1	1	9	4	1	0
8	26	11	14	4	3	0	5	3	1	0
9	25	9	21	1	1	4	13	4	4	1
10	18	9	12	3	1	3	18	5	6	3
11	21	10	11	3	2	5	12	5	0	0
12	13	4	9	0	1	1	19	9	4	0
13	12	3	10	1	0	2	20	9	5	0
14	26	14	14	2	1	3	20	7	2	0
15	19	5	6	0	3	4	17	10	3	1
16	15	5	5	2	2	1	28	15	6	1
17	11	9	5	0	0	1	21	16	0	0
18	9	6	0	1	2	1	22	10	6	3
19	10	10	1	0	0	1	38	24	7	0
20	7	8	0	1	0	0	20	11	2	0
21	6	6	0	0	0	0	30	15	2	0
22	4	2	1	0	0	1	32	15	8	0
23	2	0	0	1	0	0	23	12	5	0
24	6	1	0	1	0	3	22	13	4	0
25	4	1	1	0	0	0	21	9	8	0
26	4	0	0	2	1	0	21	12	6	0
27	2	0	0	1	0	0	17	6	1	0
合計	344	139	137	48	32	41	478	232	88	10

（注）地域活動の内容については複数回答あり。

ＰＴＡ役員はもちまわり制であることが多いので、「ＰＴＡ」と答えた人のどれだけが自主的に活動しているかは疑問であるが、７～15歳という小・中学生の子供を持つ人達の参加率が高く示されるのは、そう不思議なことではないだろう。

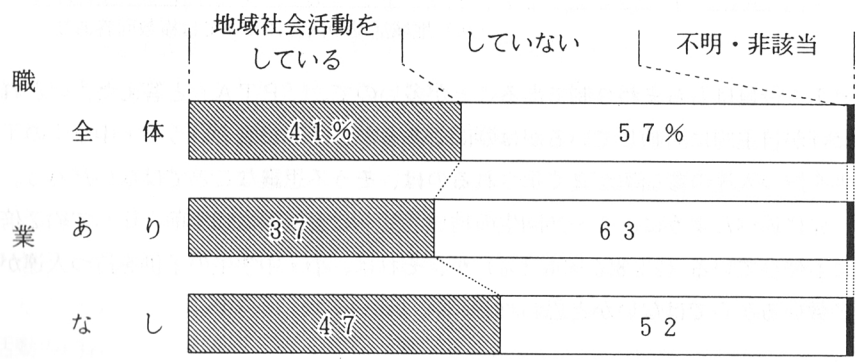
先に述べたように、１～16回生の地域活動への参加率は10年前と比べて約２倍にも伸びている（28.8%→56.1%）が、それは、小・中学生の子供を持つ人達が多数いるからではないかと思われる。

図7　末子の年齢と地域社会活動の関係



次に、自分が職業に就いているか否かが地域活動への参加に影響があるかどうかをみてみたい。

図8　職業の有無と地域社会活動の関係



職業に就いていない人の方が就いている人よりも、自由な時間を多く持つことができるということだろう。職業を持たない人の方が地域活動に参加する割合は高くなっている。

また、地域活動をしていない人についてであるが、「今後、何かしてみたい」という人は48.5%と約半数を占め、「したくない」人の18.4%を大幅に上まわっていた。何らかの形で地域活動に関わっていきたい、という願望、また活動や人とのコミュニケーションをとおして自分自身を向上させ、生活にハリを持たせようとする積極的な姿勢を持っているように感じられ、好ましいことだと思う。

最後に、その他の地域活動の内容をいくつか挙げておく。

- 福島県消費者啓発推進員（県くらしのアドバイザー）
- 各種（市・商工会議所etc.）審議会、委員会消費者代表委員
- 県の指導員
- 自治会
- 学童クラブ
- 教会活動を通した様々な地域活動
- ボーイスカウト
- 文化財保護委員（市）
- 町内会
- 留学生の世話
- 新婦人

4．生涯活動

生涯活動については、生涯活動を現在しているかどうか、している人は具体的に何をしているのか、していない人はこれから始める意志があるのかどうか、そして始めるならどんなことをしたいのか、という4質問で調査をした。

表10から分かるように、全体でみると、「している」と答えた人が50.5%、「していない」人が49.5%できれいに半数にわかれている。また、「していない」人のうち約70%の人々が「今後始めたい」と回答していることから、生涯活動に対する関心や意欲は非常に高いと考えられる。

しかし、ここで注目したいのは、生涯活動を「している」人と「していない」人の割合を回生順に追っていくと、1回生から12回生までは「している」人の方が多い傾向にあるが、13回生以降ではその関係が逆転していることである。このことから生涯活動に影響を及ぼすいくつかの要因があると推察できるので、以下

で考察する。

表10　生涯活動について

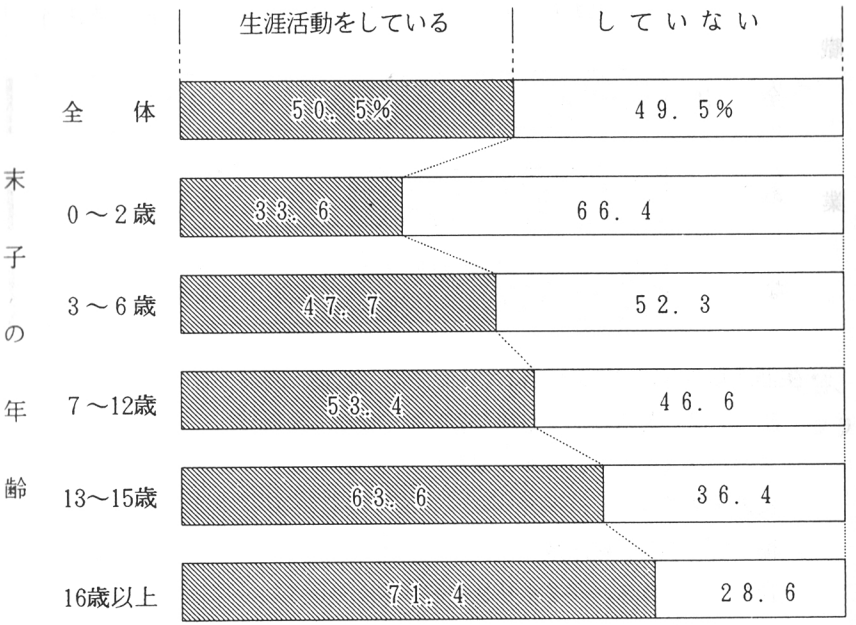
回生	人　数	している		していない				無回答
		(人)	(%)	(人)	(%)	今後始めたい	始めたくない	
全体	832	412	50.5	404	49.5	259	113	16
1	25	13	54.2	11	45.8	10	1	1
2	26	19	73.1	7	26.9	4	1	0
3	25	15	60.0	10	40.0	6	3	0
4	28	18	64.3	10	35.7	7	3	0
5	20	12	63.2	7	36.8	0	7	1
6	22	9	42.9	12	57.1	6	4	1
7	18	12	66.7	6	33.3	4	2	0
8	31	19	61.3	12	38.7	9	3	0
9	39	21	55.3	17	44.7	12	2	1
10	39	20	55.6	16	44.4	14	2	3
11	33	19	59.4	13	40.6	10	3	1
12	32	16	53.3	14	46.7	9	5	2
13	32	14	43.8	18	56.2	10	6	0
14	46	22	47.8	24	52.2	17	4	0
15	37	16	44.4	20	55.6	13	5	1
16	44	19	43.2	25	56.8	13	11	0
17	32	14	45.2	17	54.8	14	2	1
18	34	19	57.6	14	42.4	7	7	1
19	48	19	39.6	29	60.4	17	10	0
20	27	14	51.9	13	48.1	10	0	0
21	36	12	35.3	22	64.7	12	8	2
22	36	15	41.7	21	58.3	16	5	0
23	25	12	48.0	13	52.0	9	3	0
24	28	16	57.1	12	42.9	8	2	0
25	25	12	48.0	13	52.0	7	5	0
26	25	10	40.0	15	60.0	10	4	0
27	19	5	27.8	13	72.2	5	5	1

注）（%）は無回答を無視して算出した。

育児による生涯活動への影響

育児との関係を調べるために、「末子の年齢」のデータを用いた。実際に子育てに手をかけているのかを判断できるという点で、正確な関係が導き出せると考えたからである。

図9　末子の年齢と生涯活動の関係



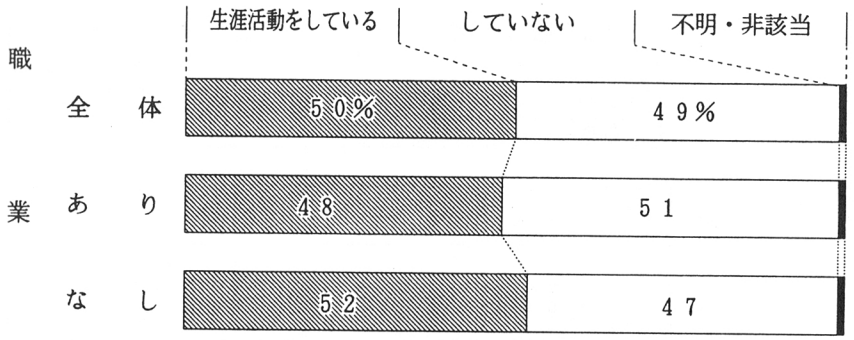
グラフから末子の年齢が低いほど、生涯活動をしていない傾向にあることが分かる。13回生は30歳代後半であり、ちょうど育児による忙しさのピークを過ぎる時期であることから、子育てが一段落して時間的余裕が出てくると、できた時間を生涯活動にあてる人が多くいるのであろう。ゆえに、1回生から12回生では生涯活動をしている人が多いといえる。

職業の有無による生涯活動への影響

グラフから、生涯活動をしている人の割合は無業者の方が若干高いことが分かるが、明確な因果関係を示す数値は得られなかった。

最後に、生涯活動の具体的な内容であるが、非常に多種にわたっている。一人でいくつもの活動を行っている方も多数みられ、意欲的な取り組みがなされていると感じた。

図10　職業の有無と生涯活動の関係



・生涯活動の内容（複数回答）

語　　学（英語、ドイツ語など）	94名
スポーツ（テニス、ゴルフなど）	80
茶道・華道	55
編み物・手芸・和洋裁	53
音楽（コーラス、バイオリンなど）	45
料　　理	15
舞踏・演劇	5
そ の 他	185

その他の内容：絵画、書道、手話、着付け、政治・経済学、陶芸、俳句、短歌、アートフラワー、パソコン、考古学、女性学、彫金、大学通信教育、文章など

20周年時のアンケート結果と比較すると、「茶道・華道」が全体に占める割合は、前回はおよそ30%であったのに対し、今回は13.3%と半分以下に落ち込んでいる。一方、「語学」の占める割合は、前回たった5%たらずであったが今回は22.4%と大きく上昇した。この変化の背景には、やはり日本の国際化があるだろう。海外旅行に行く機会もますます増えてきたなかで、語学の勉強が生活により密着した実用性の高いものとなってきているために、多くの人が語学を学ぶようになったのではないだろうか。

これから生涯活動を始めたいという人々も、20%以上が「語学」を始めたいと回答している。

・これから何を始めたいか（複数回答）

語　　学	16名
茶道・華道	6
スポーツ	3
音　　楽	2
料　　理	1
編み物・手芸・和洋裁	1
そ の 他	46

その他の内容：絵画、書道、フラワーアレンジメント、ワープロ、陶芸、経済学、朗読、看護学、碁、ペン字、彫刻、カメラ、フラメンコなど

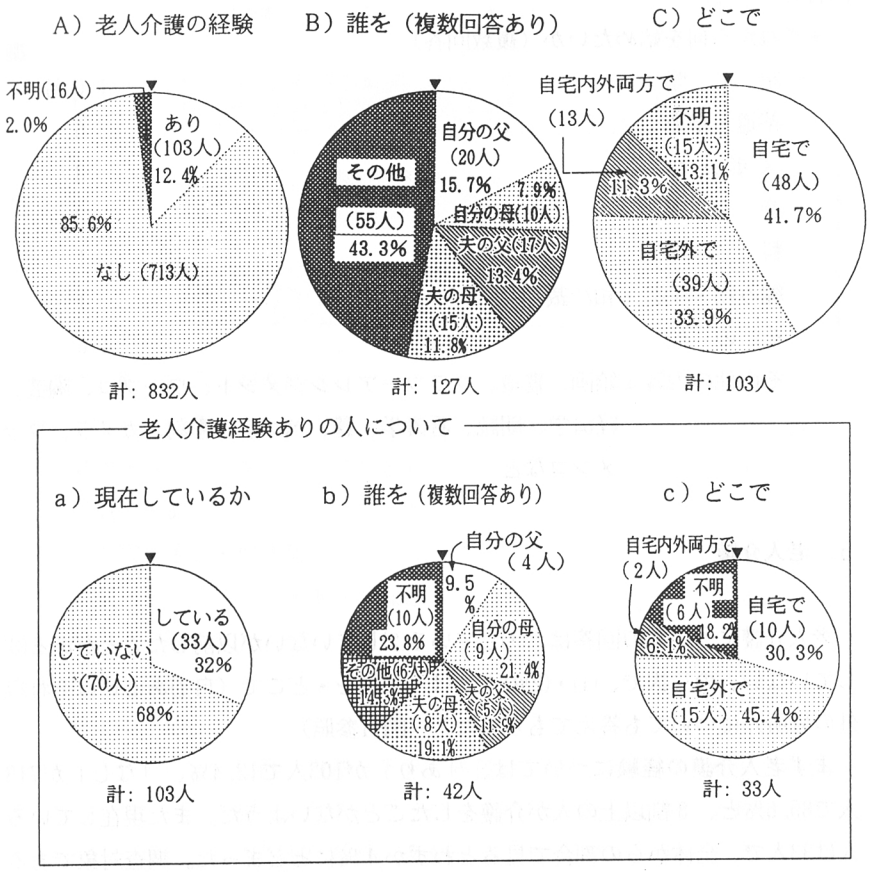
5．老人介護

老人介護についての回答は、(1)している(2)していないが以前したことがある(3)していない、の三択で、(1)・(2)の人には、だれを・どこで（自宅あるいはそれ以外の場所）についても答えてもらった。（図11参照）

まず老人介護の経験については、「あり」が103人で12.4%、「なし」が713人で85.6%と、8割以上の人が介護をしたことがないようだ。また現在している人は33人で、全体からの割合で見るとわずか4%にとどまった。調査対象である卒業生のうち最年長である1回生の年齢が50歳弱であることから、まだ介護が必要になるほどのお年寄りが身近にいないのであろうと考えられる。しかし、現在老人介護をしている33人のうち、1回生から6回生までで半数以上の17人を占めていることを付け加えておく。

次に、誰を介護するのかであるが、複数の経験がある人にもすべて答えてもらった。「自分の父」「夫の父」「夫の母」「自分の母」の順となっているが、「その他」が半分近くを占めている。「その他」で多かった回答は、祖父・祖母であるが、この場合は「母が介護しているのを私が手伝う」「母が忙しいときはかわりに私

図11　老人介護について



がしていた」などのケースがほとんどであった。現在している人を見ると、「その他」の割合が大きく減り、自分たちの親の代の面倒を見る人で6割を超える。いずれにしても、自分の両親・夫の両親に関わらず介護をしている、あるいはしていた人が多いようである。

また、介護の場所については、「自宅で」が41.7%、「自宅外で」が33.9%、「自宅内外両方で」が11.3%となっている。「自宅外で」のうち、多くの人が実家や病院と答えており、福祉施設等を挙げる人はほとんどいなかった。また、現

在している人では、「自宅外で」の割合が45%と比率が高くなっている。

老人介護と職業の関係を見てみると、現在老人介護をしている人33人のうち、仕事を持っている人は19人で57.6%、無業の人が14人で42.4%と、この二つにはあまり相関関係はないようである。しかし、自宅介護であったらフルタイム勤務でなくても大変であろうし、自宅外介護であってもフルタイム雇用では負担が大きいのではないだろうか。今後、高齢化はさらに進んでくるだろうし、女性の社会進出の傾向もさらに強まるであろう。すると、身内のお年寄りが介護の必要な状態になったときに、一体誰が面倒を見るのか、ということになる。現在ではやはり、女性がその役割を担っている場合が多いようである。調査の中でも、いずれ親が介護を必要とするようになったら勤めることはできなくなるので、自宅でできる仕事の資格をとるため勉強を始める、という意見もあった。しかし、身体の自由のきかなくなったお年寄りの世話は女性にとっては非常に重労働であるし、高齢者の増加率を考えると、女性だけでは介護しきれなくなることが予想される。それゆえ、公的福祉施設の充実、介護休暇の実質的容認、ホームヘルパーの増員等、社会政策の拡充をはかるとともに、女性だけでなく男性や子どもも老人介護の現状や必要性を認識し、家族みんなが介護に参加していくべきであると思った。

終わりに

今回のアンケート調査は、20周年時のアンケートをもとに、さらに詳しい質問内容で行われております。家政経済学科の卒業生の動向を完全に把握するのは難しいことですが、かなり興味深い分析結果が出たと思います。この分析で得られた主な点を以下に挙げておきます。

○卒業後4・5年目の有配偶率をみると、10年前は66.7%であったが、現在は37.7%にとどまっている。このことから、晩婚化が確認できる。

○M字カーブの底が我が国の平均(52.7)と比べて低く(44.3)その後の上がり方も弱い。

○卒業後9～16年目の人の就業状況を10年前と比べると、雇用者として働く人の割合が59.6%から76.5%と増加している。

○9～16回生は10年前にはフルタイム70.4%、パートタイム8.2%であったが、

現在ではフルタイム52.8%、パートタイム16.8%とパートで働く人が増えている。

○無業者の夫は、有業者の夫に比べ「自営業」がかなり少なく、「弁護士・医師・会計士など」がかなり多くなっている。

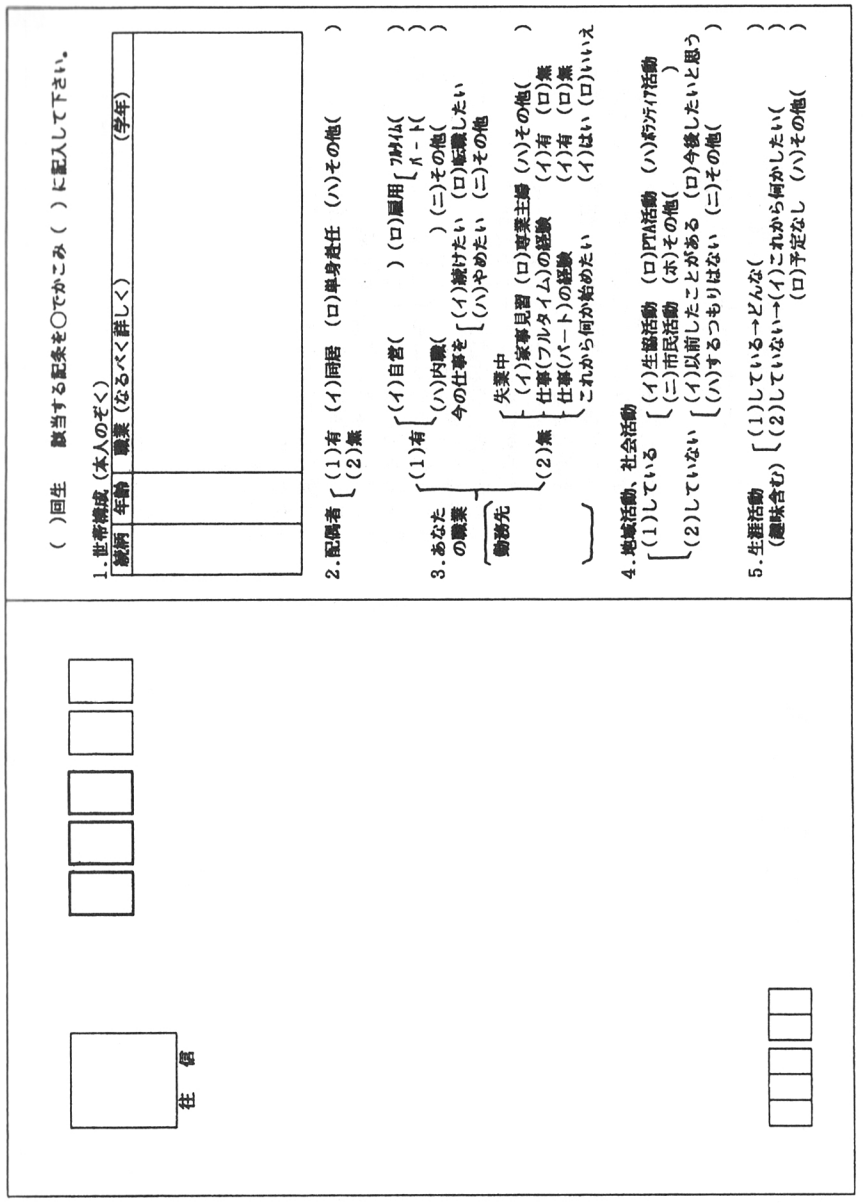
○無業者で職業経験がある人は7割近く、今後仕事を始めたいと思っているが、職業経験のない人で、今後仕事を始めたいと思っている人は約4割である。

○子育てが一段落した30歳代後半から、生涯活動が盛んになる。

○地域社会活動を行っているのは、小・中学生を持つ人で、その活動内容の主なものはＰＴＡ活動である。

○老人介護をしている人の割合は、現在においては低いが(4%)、これは卒業生の年齢が最高で49歳であるためである。介護をしている人の半分以上が1～6回生で占められている。今後、介護する人の割合は上昇することが予想される。

なお、本報告は「卒業生の会」の依頼で伊藤薫、木津美智子、木村綾子、熊本浩子、松田有加、諸岡明子、高須賀啓子('94年度　時子山ゼミ　7名)がとりまとめ、この過程で非常に勉強になりました。このような機会を与えて下さったことに感謝致します。また、お忙しい中アンケートに回答していただいた卒業生の皆様には、「卒業生アンケート実行委員会」に代わり、厚く御礼を申し上げます。御協力ありがとうございました。



家政経済学科３０周年記念
卒業生アンケートのお願い

皆様　お元気でお過ごしのことと思います。

今から１０年前、２０周年の時に、葉書アンケートを実施し、卒業生名簿が整備され、卒業生の会が発足しました。

さて、このたびは、３０周年にあたり、同様の形式で卒業生アンケートをお願いすることになりました。分析結果については、家政経済学論叢第３１号に掲載いたします。また、より充実した名簿づくりにも役立てる予定です。ご多用中とは思いますが、１１月末日までにご返送下さいますよう、ご協力をお願い申しあげます。

尚、３０周年記念行事は、平成６年１１月２３日勤労感謝の日です。お申し込みまだの方はお急ぎ下さい。

問い合わせ先
家政経済学科合同研究室
TEL 03-3943-3131　内線7280

平成６年１１月

卒業生アンケート実行委員会

返信

6. 老人介護
- (1)している →だれを(　　)→ (イ)自宅 (ロ)その他(　　)
- (2)していないが以前したことがある →だれを(　　)→ (イ)自宅 (ロ)その他(　　)
- (3)したことがない

7. 30周年記念家政経済学科
卒業生名簿を購入（予価 送料込み1000円）
- (イ)希望する
- (ロ)希望しない

8. 学科や卒業生の会に望みたいことなど、どんなことでもご自由にお書き下さい。

(　　)回生　氏名(　　)

文献リストおよび書評紹介(3)

家政経済学科30周年にむけた記念事業の一環として、生活問題を広い意味での経済学的な視点・方法から追究した文献リストを、学科スタッフの手によって作成する事になりました。昨年、一昨年、『家政経済学論叢』第28号および第28号において、12名の学科スタッフがそれぞれ５冊計61冊の文献リスト、および12の書評を２度に及び執筆しており、今回は最終回になります。

もとより学科スタッフの専門領域は、必ずしも経済学ということに限定されておらず、したがって推薦文献も、「生活問題を中心とする広い意味での経済学」という範疇に属さないと思われるものも含まれているかも知れません。しかしその場合にも、学科スタッフ各自がもつ問題意識や視点から捜し出した共通のテーマに関連する基本文献である、と考えていただければいいと思います。

こうした文献リストの作成や書評は、家政経済学会の多数を占める学科の卒業生や在学生にとって有益であるばかりではなく、ともすれば専門領域での議論や視点に限定されがちな学科スタッフや研究者にとっても、より広い視野からの論点や隣接領域での議論を知り、新しい刺激を獲得する素材となるものであると信じております。

なお、(a)はその書物の性格や主たる読者層、(b)は簡単な内容紹介です。またそれぞれの推薦者が書評として選んだ文献については、番号の前に◎印を付した上で⇨**書評参照**と付け加えておきました。

文献リスト

時子山　ひろみ

①荏開津典生著　『飢餓と飽食』（1994年　講談社）

(b) 講談社選書メチエの１冊で一般向きの教養書である。世界の食料問題を考える上で欠く事のできない12の視点から、現状と今後の展望が豊富

家政経済学論叢第30・31合併号

1995年 4 月30日発行

編集発行人　今村奈良臣・住沢博紀

発 行 所　日本女子大学家政経済学会
東京都文京区目白台2－8－1
電話　03－3943－3131 内 7280

印 刷 所　コーハン株式会社
東京都文京区春日2－18－9
電話　03－3813－4481